

■卓話



私のカナダの1年

2010-11年度
青少年交換派遣学生
山下 礼さん

カナダに来て、一番強く感じたことは、私は日本人で、日本という国が大好きであるということでした。これは決してカナダが嫌いということではありません。きっとこの気持ちは今まで生きてきた母国を離れてみて、初めて気づける気持ちだと思います。

一年の間に私は、日本では経験したことのない様々な感情を経験しました。カナダについて最初の2ヶ月くらいは、私は相手が何をいっているのかあまりわからなかつたし、私の気持ちを相手にうまく伝えられませんでした。それは本当に私をイライラさせました。こんな風に自分の感情を伝えられないからイライラするということは日本にいる時はありませんでした。今までとは違った感情を経験していくたびに、人間はこういう風に成長していくのだろうなと思いました。

私は本当にロータリーで留学して良かったと思っています。なぜならロータリーでいったからこそ世界中に友達ができたからです。他のプログラムでいっていたら、そんなことはなかったと思いますし、私の日本人の友達もロータリーで留学すればよかったですと言っていました。私はいつも、次にある留学生のオリエンテーションを楽しみにしていました。そしてオリエンテーションの度に、心からロータリーでカナダに来てよかったですと思っていました。



カナダでロータリーの活動を手伝ってみて、一番驚いたことはロータリーが本当に様々なことに関わっているということでした。もし、できるならば私も将来ロータリアンになって青少年交換プログラムに関わり、彼らの夢のお手伝いをしたいなと思いました。

私はロータリーに本当に感謝しています。ロータリーでなければ、海外留学など到底できませんでした。私は留学できると聞いたとき、大喜びしたことを今も覚えています。海外留学することは小さな時からの夢でしたが、実現するためにはお金がとてもかかるので諦めかけていました。ロータリーで行くからお金が全くかからないというわけではありませんが、他のプログラムで行くより随分と家族の負担はへったと思います。

私はまだ18歳です。これから生きていく中で様々なことがあるかもしれません、私はこれからもきっと2010～2011年が私にとって一番特別な年であったことは忘れないでしょう。

数え切れない人が私の留学に関わってくれています。私はその一人一人にお礼をいいたいです。感謝しても感謝しきれません。本当にありがとうございました。



●卓話予告

日 時	テ　一　マ
11/10(木)	ロータリー財団強調プログラム 小田清和ロータリー財団委員長